

## ついつい長くなる話

木下愛理(荒 愛理)

つちのいえのメンバーだった先輩が帰ってくると、なんかええ顔だった。私は制作のことばかり考えていると、鬱屈して100%楽しめていなかった。つちのいえは、やりながら考えるという、とりあえずやってみる感と、ちょっとアングラな雰囲気こそられるものがあつた。参加したいに決まってる!

綺麗じゃない、新しくもない、言うたら何もない、それが京都芸大の誇るべきところ。ケチつけてる訳とちやいます。そこから創造する力がめっちゃ強いということです。無い物には替わりになる物への閃きや、有る物で活かすという臨機応変力は、この大学、さらにつちのいえでは最高に学べた。特別アイデアマンでなくても、そこに居れば自然と身についていく。

そして忘れもしない、忍耐も確実に鍛えられた。一番寒かった年末、悴む指で竹小舞を編んだ思い出。メンバーで暖かい鍋を囲むのが楽しみで、ひたすら編んだ。東北で、寒い!と感じる事は当然あるが、あの時の寒さに比べれば…!

述べてきた事は、職人の世界ではそれが出来て当たり前で、さらに上をいってると思う。当時茅葺きを指導して下さった斎藤親方にも聞いてみたい。お会い出来ることが叶えば、学生の時には思い付きもしなかった質問が、今だからこそ山程ある。

一人前にはまだまだだが、どうして茅葺きの道に?と聞かれれば、必ずつちのいえの話をする。これはちょっと威張れる。

### 略歴

2012年 美術学部陶磁器専攻卒業  
2014年 宮城県石巻市の茅葺き会社に就職  
2018年 山形県へ移住。武者修行を始める。  
2020年現在、茅葺き職人と主婦を兼業。



茅葺きの仕事